

秋川左岸崖線の野生哺乳類

(公財) 科学教育研究会 研究員

森 弘 安

多摩川の最大支流秋川の崖線樹林帯で、熱センサーカメラを用いて、野生哺乳類の生息調査を行った。崖線の樹林帯が、数種の野生哺乳類の移動経路や生活場所であることを確認した。

東京都あきる野市の秋留台地と秋川河川敷との間に、幅および高さ 15 m 前後、長さ約 6 km の細長い急峻な段丘崖（崖線）があり、アラカシ、シラカシ、イヌシデ、ケヤキなどの高木が林冠を形成し、亜高木のヤブツバキ、低木のアオキなどが林内に茂り、マダケの竹林が縞模様のように入り込んだ樹林帯を形成している。



(図 1) 中流域付近の崖線樹林帯（左側は耕作地、さらに左側に堤防と秋川の流水路がある）

秋川右岸の東京サマーランド付近から対岸を眺めると、上流から下流へ延々と続く樹林の壁が見える。上流部は、秋川溪谷のV字谷崖面の樹林帯に接続し、河川敷の外側を縁取るように崖線樹林帯が 6 km 余り下流の多摩川合流点近くまで続いている。



(図 2) 引田橋から崖線上流部の方向（住宅地の拡大による崖線樹林帯の分断が見える）

崖線の上の台地には古い集落に新しい住宅地が加わり、下側の河川敷は田畑に利用されたり、深く台地が浸食されて古くから集落が発達した場所もある。





(図 3) 下流域付近の崖線樹林帯（撮影者の後方が堤防と秋川の流水路。堤防と崖線の間は水田耕地）

近年、崖線部に大型墓地の造成、高木伐採、道路拡幅などによる樹林帯の分断が進んでいる。崖線樹林帯は山地の森林と住宅地の公園樹林や寺社林・屋敷林を結ぶ「緑の回廊（コリドー）」として、多くの種類の野生動物たちの

(図4) 秋川左岸崖線樹林帯の野生哺乳類
(熱センサーカメラによる生息調査)

写真上の数字は、撮影年月日を示す



 は、秋川の水流域を示す
 は、崖線樹林帯と調査定点を示す

定点⑩
 ハクビシン 2012. 04. 13



定点⑪
 タヌキ 2011. 07. 26



定点⑪
 アライグマ 2011. 07. 28



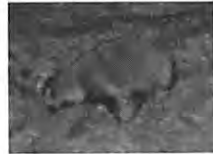
定点⑬
 タヌキ 2013. 04. 12



定点⑬
 アライグマ 2013. 03. 20



定点⑭
 タヌキ 2013. 04. 17



定点⑮
 タヌキ 2013. 04. 30



定点⑮
 ハクビシン 2013. 04. 30



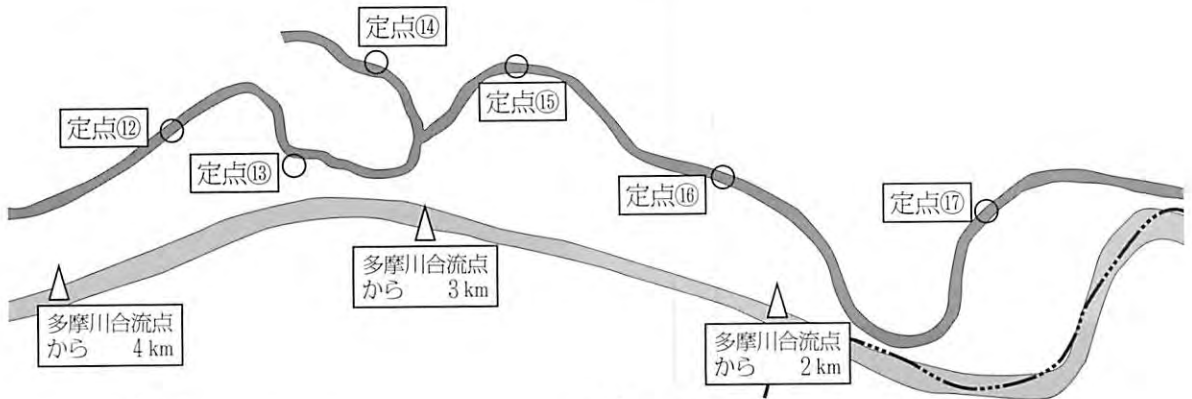
定点⑭
 ハクビシン 2013. 04. 16



定点⑯
 タヌキ 2013. 05. 07



定点⑯
 ハクビシン 2013. 05. 10



タヌキ (疥癬) 定点⑫
 2013. 02. 21



アライグマ 定点⑬
 2013. 02. 19



タヌキ (疥癬) 定点⑰
 2013. 06. 30



ハクビシン 定点⑰
 2013. 07. 01



移動経路としての役割を果たしてきたと考えられる。

図4は、秋川の流水路とその左岸に形成された崖線の位置の概略を示したものである。崖線は急傾斜のためには多くは放置されていて樹木が茂り、立ち入るのは困難な場所が多い。

今回の調査は、約6kmの崖線に図4に示した17か所の定点を設定して、センサーカメラ1台または2台を1週間設置し、撮影された哺乳類を記録したものである。撮影された哺乳類は、タヌキ、キツネ、アナグマ、テン、イタチ、ハクビシン、アライグマの7種であった。

この調査は、筆者が東京都あきる野市の自然環境調査にボランティア参加をして実施したもので、市の環境政策課による「生物多様性あきる野戦略」策定の際に、崖線樹林帯の保全の重要性を検討する資料として生かされた。

また、アライグマやハクビシンなどの外来生物の生息情報は、市による外来生物法に基づく捕獲作業に役立てられた。

図4には、秋川の流水路上に多摩川合流点からの距離を示してある。また、崖線に設定した①～⑱の各定点の近くに、各定点で撮影され、動物の生息確認の記録になった動物写真を掲示してある。



(図5) タヌキ

(定点③で2014.01.16、00:29撮影)

タヌキの生息確認は多く、図4の17定点中13定点で撮影され、生息が確認されている。崖線下部に接する河川敷の農地やオギ・アシの草地、さらに崖線上部に接する台地の住宅地や農地に進出している個体もある。



(図6) キツネ

(定点③で2014.01.16、01:44撮影)

崖線でのキツネの撮影は少なく、17定点中2定点のみである。しかし、河川敷の畑地や台地の中央付近の広い畑地にキツネ特有の一直線の足跡がたびたび見られ、キツネの移動力の大きさと行動範囲の広がりがうかがえる。



(図7) ハクビシン

(定点③で2014.01.16、20:53撮影)

ハクビシンは外来生物であり防除の対象であるが17定点中8定点で撮影された。崖線だけではなく、丘陵地や山地でも頻繁に撮影され、分布の広がりが推測される。



(図 8) アナグマ

(定点④で 2012. 07. 23、20 : 24 撮影)

アナグマは 17 定点中 2 定点で撮影された。タヌキとともに里山の代表的な哺乳類だが、タヌキのように分布地が連続せず散在している。



(図 9) テン

(定点⑦で 2013. 01. 19、03 : 57 撮影)

テンは 17 定点中 3 定点で撮影された。テンは山地の動物であり、市内の山地で多数撮影され生息が確認されている。崖線の樹林帯は山地の森林と接続しているため、分布を広げているものと思われる。



(図 10) アライグマ

(定点⑬で 2013. 03. 20、04 : 41 撮影)

アライグマは、17 定点中 3 定点で撮影された。あきる野市内では、山地、丘陵地、農耕地、崖線などで、センサーカメラ撮影によるアライグマの生息確認がされてきたが、現在は、外来生物法に基づき、市役所の担当者による毎年 80 頭前後の捕獲が市内各所で行われているので、崖線での生息数も減少していると思われる。



(図 11) イタチ

(定点②で 2010. 04. 16、05 : 17 撮影)

イタチは、17 定点中 1 定点のみで撮影され、撮影件数は少ないが、秋川のアシが茂る水際ではたびたび目撃されている。

関連資料

1. 崖線の緑を保全するためのガイドライン
(平成 24 年 3 月、東京都都市整備局発行)
2. あきる野市自然環境調査報告書
(平成 21 年度～ 23 年度、あきる野市発行)
3. 生物多様性あきる野戦略
(平成 26 年 9 月、あきる野市発行)